

令和3年度 教育委員会と学校の未来について語る会 記録

令和3年11月20日(土) 13:50～15:40

江留上コミュニティセンター スマイルホール

【出席者】

〈坂井市教育委員会 7名〉

川元利夫教育長、中田誠一郎教育部長、古川敬一教育次長、上田裕明教育審議監、井尻三千代教育総務課長、小針慶子学校教育課長、高倉尚美文化課課長

〈坂井市PTA連合会 15名〉

久保敏秀会長、稲澤宗一郎副会長、岩本修一副会長、森田洋平副会長、竹内利道副会長（鳴鹿小校長）、岡本紀和顧問、石津直哉顧問、村中めぐみ顧問、小林裕子理事、黒石亮理事、原田裕輝理事、佐々木薫理事、市村直哉理事（春江中校長）、堂高晶子事務局（春江中教頭）

（1）開会の挨拶

〈坂井市PTA連合会 会長 久保 敏秀〉

- ・教育委員会の皆様に来ていただき、ありがとうございます。
- ・昨年来コロナの渦中にあるが、GIGAスクールやSDGsなど、今後につながる取組も多い。坂井市の発展のために意見交換ができれば幸いです。

〈坂井市教育委員会 教育長 川元 利夫 様〉

- ・みなさんにお会いできてうれしい。
- ・教育委員会の管理職がすべてそろう会。今日は直接いろいろな話を聞かせてほしい。楽しみにしていた。
- ・コロナ禍の中で感染者も出る中、PTAが支えて下さっている。学校教育の現場も大きく変化している。感染を予防しながら新たな挑戦のステージに入っていく。
- ・各小中学校の体育祭や文化祭、修学旅行も無事に終了できた。
- ・思い出花火を実施し、家庭で親子の共通の話題が提供できたと思う。
- ・懇親の場がないのが残念だが、それ以上に今日はしっかりと意見をお聞きしたい。

（2）懇談会

【第1部】質問・要望事項について

司会：稲澤宗一郎（坂井市PTA連合会副会長）

第1部は教育委員会への質問や要望についてお聞きしたい。学校施設の整備

やコロナ対策については、各中学校区から市の手厚い施策に感謝の声が寄せられた。市教育委員会に提出してある個々の要望については、学校とのやりとりで改善を進めていただくが、各課より概要をお願いしたい。

○各中学校区から多く出された内容（学校施設等について）

井尻総務課長より

〈除草について〉

- ・どの学校も除草にはご苦労されている。P T Aの皆様には、奉仕活動等で大変お世話になっており、感謝している。1年に1~2回業者委託をしたいと考えているが、来年度は予算の関係上難しい。

〈表土について〉

- ・総務課は現場に足を運んでおり、状態は把握している。グラウンド改修はまだ先になりそうである。

〈フェンスについて〉

- ・危険なものを見きわめ、優先順位をつけて修繕させていただいている。
- ・学校施設の修繕については、雨漏りが最優先。順番に修繕していくのでお待ちいただきたい。

〈樹木について〉

- ・各学校に樹木管理の予算をつけている。各学校で計画的に運用しているはず。樹木が多い学校、高木のある学校は近隣からの苦情もあると聞いている。学校予算で足りない場合は、個別に相談してほしい。

〈エアコン設置について〉

- ・令和元年度より小学校（音楽室・図書室）、中学校（音楽室・理科室）への設置を実施し、各校の設置が終了した。次は中学校の他の特別教室に設置の予定。

〈プールの老朽化について〉

- ・市内の学校プールはS40年代から設置されているものもあり、老朽化が進んでいるが、大規模な改修は行わない予定である。代替として市内の屋内プールを利用していく方向である。来年度は試験的に学校の授業で市内屋内プールを使用して検証する予定である。

小針学校教育課長より

〈通学路の危険箇所の整備について〉

- ・安全確保のために毎年4~6月にかけて「通学路危険箇所報告書」で報告してもらい把握している。保護者や地域の方から、危険な箇所や要望を聞き取

って対応している。「坂井市通学路交通安全プログラム」において、道路管理者、警察等関係機関と連携し、合同点検も実施。結果は通学路安全推進会議で報告。早急に対応できないものについては、学校に個別指導や通学路の変更をお願いしている。今後ともご協力願いたい。

石津顧問：グラウンドの除草について

丸岡南中での除草ボランティアの際、塩化カルシウム土俵にまいていた。効果があるのならば、どの学校でも安価で実施できるのではないか。

岡本顧問：木部小も先日まいた。学校で備蓄している塩化カルシウム（にがり）である。

井尻課長：グラウンドの表土を固め、定着させるための「にがり」で、学校に毎年予算をつけて配布している。

教育長：除草剤は安全面から学校ではまかないのが原則。教育委員会で研究して手に入るものかどうか調べてみる。

村中顧問：通学路の危険箇所について

磯部小通学路で通学時間帯、車両は右折禁止になっている箇所があるが、守られずどんどん車が入ってくる。時々警察が取り締まるが、危険箇所に入れていただきたい。

小針課長：まず、学校に保護者からの声を上げていただきたい。学校を通して市教委に報告される。どんどん挙げていただきたい。

久保会長：市の方でも交通量の調査をしてもらいたい。

教育長：特別教室のエアコン設置について

エアコン設置は、他市と比べて遅れているということは決してない。教育環境については、自信をもって整えているので安心してほしい。

○注目される事項について

〈1人1台タブレット端末の利用状況、教育の情報化に伴う環境整備について〉

司会：タブレットを活用した教育の状況について、Wi-Fi環境の整備も含めてお聞きしたい。

上田審議監より

・小1～中3までタブレットを使用して学習している。例えば、小1で学ぶアサガオの観察の場面では、それぞれがタブレットで自分のアサガオ

の写真をとってストックしている。低学年でキーボードが使えなくても、使用できている。高学年はキーボードを使って文字入力、中学校では文章の作成、画像の加工、編集もできる。

- ・市独自に導入している学習支援ソフト、SkyMenu の活用も進んでいる。個々の意見を一齐に集約し、瞬時に共有できる。人前で話すのが苦手な生徒も生かされる。効率的に意見を集め、話し合ったり、他の子どもたちの意見に触れたりする機会をできるだけ与えて、深い学びにつなげている。
- ・デジタルドリルも導入。一人一人の得意・不得意に合わせた問題が選択できる。
- ・Wi-Fi 環境については、学校によってつながりにくいところもある。順次対応している。
- ・すべてデジタルに移行しているということではなく、これまでのドリルやプリントなどのやり方にデジタルも活用しながら、授業を進めている。

〈タブレットの持ち帰りについて〉

- ・非常時や、今後日常的に持ち帰ることを見据え、中学校区ごとに期間を決めて自宅への持ち帰りを試行している。家庭の環境を調査し、ルーターの貸し出しも含め、いろいろな課題が見つかっている。それらを一つ一つ解決することで、この冬には大雪や、コロナでの休校期間があったとき、持ち帰ることもできるのではないかと考えている。
- ・すでに、コロナ禍の自宅待機期間にタブレットを自宅に持ち帰って授業を受けた生徒もいる。学校としても、リモート学習の検証を行っているところである。

〈Pepper 活用について〉

司会： 市の広報誌でも特集されていたが、親としてもどのような学習が行われているのか興味深い。子どもたちは Pepper で楽しく学んでいるか、Pepper を活用することで子どもどのような変化があるかをお聞きしたい。

小針学校教育課長より

- ・Pepper は 7 月から運用を開始。小中学校ではプログラミング学習、クラブ活動等で使用し、論理的思考を育むための課題解決学習に活用している。自分のプログラムで実際に Pepper が動く、という目に見える形で学びの達成感を味わうことができる。昨年度三国北小では 5 年生がプログ

ラムしたクイズを全校で楽しむ催しがあった。P T A活動でもぜひ活用してほしい。

- ・これら I C T教育は、寄付市民参画制度によせられた寄付で実現できている。3億5千万円が目標であるが、すでに2億3千万円が集まっている。全国の寄付者から期待をされている坂井市の I C T教育である。子どもたちの最先端の学びに役立つよう運用していく。

岡本顧問：Pepper1台の運用費用は？

小針課長：ソフトバンクの社会貢献プログラムとして契約している。本来なら1ヶ月6万円のところを1ヶ月2万4千円でレンタルできる。3年間の契約である。

稲澤副会長：詰め込み式の学習ではなく、楽しく思考力を養う機会にどんどん活用してほしい。

〈コロナ禍でのP T Aの活動について〉

石津顧問：・コロナ禍で縮小化される体育祭などの学校行事に「参加できないなんて」と不満をいう保護者が多い。しかし、消毒や人の整理など、学校に寄り添った活動で支えたP T A活動の話聞き、なるほどと思った。不満や要望ばかりを学校にいうのではなく、子どもたちのために学校と同じ方向を向いて子どもたちの成長のためになにができるかを考えることが大切ではないか。コロナでの制限が続く中、親と学校が歩み寄って協力していきたい。

【第2部】坂井市の学校の今と未来

司会：森田洋平（坂井市P T A連合会副会長）

第2部は、坂井市の学校の未来について教育委員会の皆様と考えていきたい。まず坂井市教育委員会で力を入れている取組についてお聞きしたい。

〈生涯学習スポーツ課より〉古川次長

- ・スポ課では、スポーツ少年団やスポーツ王国など、子どもたちの学校外の教育の支援を行っている。子どもたちの将来を見越し、地域との関わりを濃くしていきたいと考えている。
- ・合宿通学：防災をテーマに日赤の方、P T Aの方々と子どもと一緒に勉強会を行っている。子どもたちが地域の方々とふれあう貴重な機会。今年は地域でやりたいと言う申し出があった。P T Aに協力いただきながらを全市で実施でき

るようにしていきたい。

- ・わんぱく少年団：トレッキング・シップ体験などの自然体験を行っている。
- ・わんぱく王国：わんぱく少年団を変更して、だれもが参加できるような体制を作る。坂井市には、手伝っていただける方、講師ができる方がたくさんおられる。ぜひPTAの方々の意見を聞きながら前に進めていきたい。

〈文化課より〉高倉課長

- ・文化課では文化の振興、文化財の保護と活用を行っている。
- ・ふるさと坂井絵画展について：S60年から毎年すべての小学校から2000点の参加がある。坂井市を見る子どもの視点がよくわかる。坂井市を大好きになってもらう企画であり、学校、保護者にもご理解とご協力をお願いしたい。
- ・三国龍翔館のリニューアルについて：R5春のオープンを目指している。子どもが学芸員気分になって、家族に龍翔館を案内していた場面がありうれしくなった。自分たちの博物館と思ってもらえる施設を創っていきたい。
- ・ONOメモリアルについて：企画展を開催。坂井絵画展で入賞した生徒が芸術家として個展を開く例があった。子どもたちの芸術の循環の起点として着目してほしい。

久保会長：文化に関する施設は集客が難しい。いかに関心をもってもらえるかが大事だ。スタンプラリーを導入し、達成したあとは記念になるようなものももらえれば、子どもたちも自然に足がむくのではないか。

防災について：市内の防災士との連携で事業を進めてはどうか。「防災士」という資格があることを啓発するために教育委員会もバックアップしていただきたい。PTAを窓口で、防災への意識を高める取組をしてもよいのではないか。

〈新しいPTA活動の充実にむけて〉

司会：時間も押してきているので、レジメの内容から一つだけ取り上げたい。コロナ禍でPTA活動も大きく変化した。今年は思い出花火などの事業もあったが、今後の活動の充実にために意見を交換したい。

上田審議監：9月からの第6波では、十数校が次々とコロナの対応に関わった。保護者にはすぐに迎えに来てもらい、同日PCR検査、翌日の結果を受けて2日間は臨時休校となった。ご家庭でも感染対策をしていただいたので、大きく広がることがなかった。今後も、PTA行事は予定通り進め

る方向。卒業式などの実施の方法は、学校規模によって変わってくる。

村中顧問：緊急事態宣言が発令された際の子供会活動について。福井市などは、教育委員会が「子ども会については、〇〇に」「幼保園については、〇〇に」など、問い合わせ先が明示されていた。今後、コロナ禍の問い合わせ先を保護者にわかるように出していただけると、子ども会の役員さんたちが迷わないのではないか。

古川課長：子ども会はスポ課の管轄である。昨年からのコロナ禍で、理事会が集合形態で実施できず、書面だけの共通理解となった。連絡系統の周知も不十分であったこと、申し訳ない。例年通りの役員会ができれば、円滑な連絡や協議ができると考える。事業担当や問い合わせ先をきちんとお知らせしたい。

< 休憩 > 5分間 (ケーキとコーヒー)

【第3部】 坂井市を担う子どもたちをはぐくむ教育について

司会：岩本修一（坂井市PTA連合会 副会長）

第3部は「ふるさと坂井」が大好きな子どもたち、「坂井市に住みたい」と思う子どもたちの育成のために、どんなことができるかを語り合いたい。

- ・坂井市を知り、魅力を発見する実体験が必要
- ・地域の働く人との交流を通して、地元にながら夢を叶える方法について考える機会を設ける。
- ・優良企業の存在をアピール
- ・企業と中高校生の交流機会を増やし、働きたいと思わせる教育が必要
- ・職人体験、伝統文化や伝統技術の継承についての教育が必要。
- ・坂井市にゆかりのある著名人の講演を希望。
- ・親世代への教育が必要。親自身が「ここは住みやすいところ」と実感し、子世代に伝えられるように

これらの意見が出ている。これに関してどうか。

小針学校教育課長：坂井市総合計画の将来像「輝く未来へ、みんなで創る希望のまち～子どもたちの夢を育むふるさとを目指して～」に基づき、第2次教育振興計画を策定した。将来を担う子どもたちが、夢を抱きながら自信をもって育っていける環境作りを進め、自分たちも「この環境の中で子

育てをしたい」という誇りと愛情をもてるまちづくりに取り組んでいく。地域の方々と連携しながら、実体験を大切にしていきたい。

上田審議監：子どもたちが今学習している「SDGs」がまさに住み続けられるまちづくりの学びである。各学校では祭りや地域の伝統文化を学習材として取り上げており、地域の宝を発見する学習、地域の課題を解決するための学習を行っている。PTAの方には、地域に「こんな素敵なおところがある」「素敵なゲストティーチャーが存在する」ということを教えていただきたい。

中田部長：わんぱく少年団の事業について。家の中でゲーム三昧の子どもたちを外に連れ出したいという思いがある。学校でも家でも扱わないメニューを体験してもらうプログラムを通して、自分たちが住んでいる坂井市のよさに改めて気づいてもらう事業。学校教育とは別のところで、わんぱく少年団のような事業をしているのは福井県でも坂井市だけ。知りおいてほしい。

川元教育長：中学、高校と地元の学校に行き、ふるさとに残ってくれる子どもが増えてくれるとうれしい。市としても、地元に残る子どもたちの受け皿を考えながら、坂井市を大好きな子どもを育てていきたい。

古川次長：地域の方々に携わってもらい、子どもたちの学校外の教育に関われるよう後押ししていく。PTAは我が子が学校を卒業すると活動を離れてしまう。その後は、ぜひまちづくり協議会で、PTAで広域的に活躍した皆様に活動を継続していただきたい。

井尻総務課長：高校を卒業すると県外に出て行く子どもたちが多く。戻ってきてもらうには、親は居心地のよい家庭という居場所を作っていくことが大切だと考える。

高倉文化課長：現代アートビエンナーレが坂井市で開催されている。芸術に才のある若者の創作や発表の場となっている。芸術への夢を抱いているお子様を応援してあげてほしい。

司会：自分自身も家業を継ぐために十数年前に県外から地元に戻ってきた。外にいたからこそ地元のよさを実感した。自然環境、おいしい食、子育てには最適な場所であると感じる。今後、PTA活動を通じて坂井市のよさを子どもたちに伝えていきたい。

久保会長：今日は濃厚な話ができただけ。PTA活動は、多くの方が、子どもが小中学校を卒業すると同時に終わってしまい、そのあとは身につけたスキルを子どもたちのために地元で生かさない。9年前、PTAのOBを中心に

ボランティアの会を作った。当時一緒にPTA経験をした仲間と息の長い活動をしている。教育委員会も、PTA以外にもそういう人材があることを知っておいていただくと、それらとタイアップした事業ができるかもしれない。

(3) 閉会の挨拶

〈坂井市PTA連合会 副会長 稲澤 宗一郎〉

- ・ 自営の農場では農業ボランティアを世界中から受け入れている。寝食をともにして働く中で、彼らのお国自慢は情熱的である。誰もが自分のふるさとがとても好きで、ふるさとの素晴らしさを熱く伝えてくる。日本の子どもたちといたい何が違うのだろうか、と考えると、家庭での教育や地域での教育が違うのではないかと思う。坂井市を好きな子どもを育てるために、地域とのつながりを醸成していきたい。
- ・ 今日是有意義な話し合いができ、感謝したい。
- ・ 引き続き、すべての子どもたちが安心して楽しい学校生活を送れるよう、地域、家庭、学校が一緒になって進んでいきたい。